No. 7

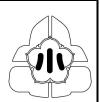
令和4年11月29日(火)

学校だより

下野市立石橋北小学校 16.52-1134

教育目標

- ○心豊かな子
- ○進んで学ぶ子
- ○健康でたくましい子



下野市児童表彰

11月11日(金)保護者の方々、そして3年 ぶりに学校運営協議会委員の皆様のご臨席を いただき、下野市児童表彰式が行われました。

これは、6年生児童一人一人のよさ、優れたところを認め、自信と誇りをもてるよう毎年下野市が行っている事業です。6年生30名が、一人一人メダルと賞状をいただき、さらに坂村市長さんから温かい励ましのお言葉をいただきました。6年生代表児童が、いただいた賞の意味を考え、自覚し、「お世話になっているたくさんの方々、地域の皆様に、感謝の気持ちを忘れずに生活していきたい。6年間一緒に過ごしてきた30名と、これからも楽しい思い出をたくさんつくり、一日一日を大切にして学校生活を送っていきたい。」とお礼の言葉を述べました。6年生がいただいたメダルは、銅メダルです。自分のよさを

一層伸ばし、これから成長していくなかで、自分の銀メダル、

金メダルを目指していってほしいと思います。







下野市陸上記録会3年が4の開催り



子どもを褒めるると。叱るると



この夏休みに下野市更生保護女性会の皆様より「小学5年生の保護者の皆様へ 子褒め活動 ご協力のお願い」という依頼がありました。果たして保護者の皆様の宿題はいかがだったでしょうか。9月になって、子どもたちが褒められてうれしかったこと、感じたことをアンケートに書いています。こんな意見がありました。

- ・「家のお手伝いをしたとき、『ありがとう』と言われたのがうれしかった。」
- ・「朝、洗濯物をほしたら、お母さんがほめてくれた。お風呂掃除でもお母さんがほめてくれた。勉強していたらおばあちゃんがほめてくれた。」
- ・「勉強と遊び時間を両立できている。時間の使い方が上手。」
- ・「ほめてほしいことは勉強。ほめられたことは、スポーツうまくなったね。」 褒められてうれしかったことが、生き生きと書かれているなかに、

「一生懸命やったことを否定しないで『よくやったね。』と言われてみたい。」という記述があり、少し切なくなりました。そしてまず頑張りを丸ごと受け止めたい、と思わされました。

また、ある教育情報誌に、神戸、同志社大学が発表した調査結果として、

「子への叱り方『次は頑張ろうね』」 との記事がありました。(内外教育 II月15日号) 自己決定度(自立心)や安心感を育てるのは、「どうしてできないの」とか「罰を科される」といった対応ではなく、「次は頑張ろうね」と声をかけた方がよい影響をもたらすということです。

それはそうだろう、と思いますが、実際叱る時を考えると難しいのかもしれません。

子どもの頃、褒められてうれしかったこと、叱られて納得した時のことを思い起こしたいものです。



ありがどうござります



6年生の児童のお家の方、 読み聞かせボランティアの 方が、たくさんの雑巾を縫 って届けてくださいまし た。助かります。



落ち葉掃きも終盤が近づ いてきました。





地域の方が、新聞紙雑誌 を届けて、プール北側に置 いてくださいました。

今年2回目の廃品回収は、 12月10日(土)です。 ご協力に感謝いたします。





下水道工事が始まりました。

学校東側の通学路は、朝 7:30~8:00 だけでなく、17:00まで北側 から入れません。ご協力をお願いいたします。